

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300569		
法人名	一般社団法人ゆたか会		
事業所名	グループホームばれっと		
所在地	富士市五貫島61-2		
自己評価作成日	令和 3年10月18日	評価結果市町村受理日	令和 3年 12月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和 3年 12月 7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

単独事業所で入居者8人という小規模運営という利点を生かし、目配り、気配りを常に心がけ、個別対応を重視し、レクリエーションや生活リハにおいても全員参加と個別対応を実施。その都度ご本人の希望に対応、生活全般に反映。地域行事にもお声掛けいただき年間を通して参加して参りましたが、昨年に引き続きコロナ禍の影響によりその機会が皆無。ただ施設の理念は地域の方々にもご理解頂いており、地域の中で最後まで生き抜いていただくための職員の努力と生活の場として日々過ごして頂くために地域の方々の変わらぬ理解は頂いております。キーパーソンのみならず、遠方にいる入居者様の御兄弟やお子様たちにも個別に会報等をお届けすることで、近況を常に知っていただく機会を設けております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「全ての人々が最後まで、地域で自分らしく尊厳を失うことなく生き抜くための住まいの充実、生活支援や援助をする事を目的とする」を掲げている。スピーチロックを長期的な課題と位置づけており、職員会議や研修等で話し合いの場を設け、理念にある「尊厳」に則した言葉かけに日々取り組んでいる。コロナ禍における家族の不安への配慮として、写真入の運営推進会議議事録と毎月のお便りで事業所の現状や利用者の様子を詳細に掲載し、家族全員に配布している。昨年度導入した「個別ケア・月目標」により、目標→計画→実施→振り返り→改善の流れが定着しつつある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、会議等で管理者、職員は理念の共有をしている。 ご家族の目にも触れる場所に掲示。	理念は年度始めの研修で確認しているが、職員の理解度を把握するまでには至っていない。職員が理念をどのように理解しているか、自分の言葉で発言する機会を今後設けていく。	理念を細分化する等、理解を深めるための工夫が求められる。年間目標等で理念に則したワードを設定するなど、職員が焦点を当てて支援に反映できる内容となる事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練、地域の文化祭に作品の出展、地域の祭りに参加等交流を図っていたが、コロナ禍の中、昨年に引き続き開催自体が皆無。	地域行事はまた再開していない。地域関係者との連絡は継続して行い、常に地域の動向や状況把握に努めている。日常生活で必須である古新聞を新聞配達員が調達してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回、「居場所ほっこり」を開催。「認知症サポーター養成講座」の講師として地域住民の方々に認知症の理解を深めてもらうよう努力。地域の「見守り隊」の活動等継続。ただし昨年からのコロナ禍の中実施は皆無。継続の意向。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、市役所職員、担当地区の包括支援センター職員、家族代表等に参加いただき開催。ホームの活動や家族の意向、地域の行事との連携等を反映。4月よりコロナの関係で富士市の状況を見ながらの不定期実施。	現在も開催は見送っている状況であるが、議事録配布により家族全員と地域出席者に報告を行っている。議事録は、コメントに写真を載せて利用者の表情や様子を伝えており、家族の安心に繋がる内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課と連絡を取り合い、GH連絡会、研修等(ズーム)に参加。入居者の発熱時にはコロナの懸念あり、介護保険課に報告、対応方法等大変力を貸していただいた。その他相談等には継続して対応していただいている。	地域包括支援センターから事務長に講演会に関する依頼があり、講師を努める機会がある。利用者支援に関する事項はケアマネジャーが連絡を取り合っている。市グループホーム連絡会とはズーム会議で交流を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、スピーチロック等の勉強会を定期的に開催し、職員の意識づけを行っている。玄関、門扉等日中の施錠はしていない。	年3回の研修のうち1回は訪問看護ステーションから講師を招き、現場に則した研修を実施している。スピーチロックを長期課題としており、内部研修における資料は具体例や注意点を明記した理念に沿った内容となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、スピーチロック等の勉強会を定期的に開催し、職員の意識づけを行っている。職員間で互いに注意をし合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の研修参加はかなり減少。職員への対応はまだまだ学ぶ機会を増やしていかなければならないと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険等改正時の際には、書面にて連絡。シフト作成時に休日、祭日でも管理者及びケアマネ、事務長のいずれかが勤務し不安、疑問等は先延ばしにせずとその都度対応出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議時等の機会に意見、要望等を吸い上げるように努力し、運営に反映するよう心掛けている。	利用料の支払いに事業所を訪れる家族とは、その場で話を聞く機会がある。遠方の家族には電話やメールで小まめに連絡をしており、家族から感謝の声が寄せられている。家族の立場になり、決定事項だけではなく経過報告を継続していく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期開催の職員会議の中で、意見、話し合い、提案等を受け、随意運営に反映。職員会議の司会進行を職員自ら実施。会議内容も職員の提案による。事務局はサポート体制。	職員会議議題「感染症発症時の対応」において、事業所内のゾーニングを行い玄関直近の一室を対応部屋にしてはどうかとの発案があった。ノロウイルス流行の兆しもあることから、早急に家族の同意を得て準備に取り掛かる意向である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は毎年査定のもとに昇給。処遇改善費及び賞与の支給。有給休暇の取得は2か月毎に1日付与。希望休の制限も設けることなくシフトに反映。設備等の改善には速やかに対応。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場サイドの見方、考え方、働き方等職員との現場乖離が無いよう努力。職員会議の機会にて都度カンファレンスを開催。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加。勉強会、研修、交流会等を活用していたが、昨年度に引き続きコロナ禍のため多くが中止。Zoomの会議等には参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活歴を収集し、家族からの情報等にて本人に展開し不安の解消や、要望を受け入れることに活用。職員が入居様との関係性を大切にしている事、常に見守っていることを伝える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	はじめて入居施設を利用されるご家族が大半なので、まずはご家族の不安、要望、疑問点などを聞き取り説明。いつでも対応する用意があることをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が希望し納得できる支援を提供できるよう、医療関係や、整容関係等導入できるサービスの提供の提示等も含め、サービス計画書に反映随時対応。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームが生活の場そのものであることを常に意識し、落ち着いた生活が継続できるよう、相互関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員(ホーム)は常に両輪になってご本人を支えていけるよう、緊密な連絡、報告を実施している。コロナ禍ではあるが家族との関わりをいろいろな手段を考え対応。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限も、外出の制限も設けていません。ご家族の生活状況の時間の中で、無理せず行動してもらうよう助言。ただし本年はコロナ禍の中実施不可能。	家族とは玄関先や窓越しで15分程度の面会を行っているが、今後は安心して面会できるように独立したスペース等を準備していく考えである。利用者同士が馴染みの関係にあり、お便りの写真から笑顔で寄り添いレクリエーションを楽しむ姿が窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を大切にしながら、なおかつ入居者同士の関係性を見極め、座席の位置やレクの対応を考慮することで相互関係が作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族が顔出しを下さっています。又介護関係の相談はその後もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に性格や希望の聞き取りをし、新たな問題にはその都度(本人への聞き取りはかなり困難なので)家族への聞き取りを重点的に希望や、意向の洗い出しに努め検討、職員会議を活用し都度カンファレンスを実施。	日常生活の中で、その時の自分の気持ちを表現する利用者もいる。職員全員が利用者全員に関わりながら、見逃がさず聞き逃さないように注視している。「どうかしましたか?」と問いかけることで、意思表示を促すような言葉がけを積極的に取り入れていく。	外出や散歩がままならない利用者にとっての新たな楽しみも含め、架空ポストにメモ書きや塗り絵などを自ら投函してもらうなど、利用者の気持ちを受け止める機会が増えていくことに期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方、趣味、嗜好等入居時の聞き取りには特に留意し、入居前の利用サービス事業所との連携により客観的な情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	聞き取りによる生活歴等をふまえ、本人の希望、能力、その日の心身の状態等日々の経過記録を熟読し、心身の変化を見極めと無理なく過ごして頂くことに注力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの結果をふまえ家族の希望等を組み入れ、現状に即した介護計画をその都度作成。	職員会議の度にカンファレンスを行い、職員全員でモニタリングの内容を検討している。ケアマネジャーがモニタリングを実施し、介護計画を作成している。必要に応じて医師に相談を行い、家族には必ず説明を経て同意を得ている。見直し期間は短期半年、長期1年が基本である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、経過記録表、申し送りノート等を活用することで情報の共有、継続をすることで介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の環境の変化や、意向の聞き取り等常に連携の取れる関係性を作り、相談等柔軟に対応するよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、包括支援センター、ボランティアさん等の連携はとれているが、コロナ禍の中、直接的な活動に反映させることが現状は困難。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期往診にて主治医との連携。家族に検査結果等その都度報告。直接家族が主治医に連絡を取ることで疑問点の解決に役立てることもある。主治医の専門外の時は速やかに他の医療機関への対応に切り替えている。	利用者全員が協力医を主治医としており、訪問看護ステーションとも連携している。専門医には事務長が付き添い、体調や状態等を医師に伝えている。受診までの経過や受診結果は、時間を置かず家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日定期的に訪問看護師による受診を受けている。介護職員からの聞き取りを行い、医療的な相談等も受けて頂き、入居者に反映。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院への面会。入院中の状態等医療機関関係者への聞き取り、付き添い家族への対応等、退院後のケアにつながるような情報を入手することで、家族の意向の反映につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針の提示、説明は入居時に実施。その時点の家族の意向の確認。主治医、訪問看護事業所との連携の確認はできている。入居時からの時間経過による家族の意思を随時、定期的に書面確認を行っている。	この1年で1名の看取り支援を行っている。当人は開設から入居していた利用者で、家族、職員、医師、訪問看護師のチーム連携により穏やかな最期を迎える事ができた。コロナ禍で面会制限がある中、タイミングよく家族も面会が叶い職員全員も安堵している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルの確認と、活用。緊急連絡先等の活用。救命救急講習を年度計画していたが、コロナ禍のため延期。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップ情報の最新版の確認および、運営推進会議の活用により地域の方々(区長、包括支援センター、民生委員等)に協力を依頼。入居者避難は基本ホームに留まることの徹底。夜間防災訓練及び水害における避難訓練の実施。	避難訓練の様子は、運営推進会議議事録で写真(説明付)による報告をしている。水平避難訓練の改善点として、居間センターテーブルの耐久性強化を図っている。消防署職員による「救命救急」や専門業者による「防災について(機器の取扱含む)」の内部研修を実施し、自己判断をしない取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別性を重視した介護を心掛け、声掛けもプライバシーやプライドに直接影響を及ぼすものと考え対応。スピーチロックに関しては複数回の研修の実施。	言葉の選択肢が少ない職員に行動制限に繋がる対応が散見される。研修等で多様な場面を想定したシュミレーションを継続して行い、事業所全体で質の向上に努めていく。夜間に10センチ程度ドアを開けている居室があるが、利用者の希望により家族の同意を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定ができる環境作りに配慮。日常生活動作においてまずは何がしたいのか、どのようにしたいのかその都度問いかけをし助言と意思確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは本人がどのように過ごしたいのか聞き取ることから始める。決して強要はせず個別に対応。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に聞きながら、季節に合った服装をアドバイス。常に2択等本人の意思が反映できるような環境を作っている。美容師が定期訪問。本人の希望の長さ等でカット。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆで卵の殻むきやトレイ拭き、食器洗いテーブル拭き等本人の能力に応じた家事の実行。職員も一緒に同じ食事を共に食す。食べ方の混乱や食べこぼしのサポートに入る。無理強いせず体調を見ながら声掛けをする。	利用者の希望や好みに配慮して、当日職員が献立を決め調理をしている。介助しながら職員も一緒に食事を摂り、後片付けの後も13時を目処に寄り添って昼休みを過ごしている。豆類を好む利用者が多く、煮豆や納豆が頻繁に添えられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全食手作りなので食事量、形状、好み等を考慮。毎食の水分と10時、3時に飲水。服薬時の水分も含め、一日の水分量確認。摂取量の減小傾向にある入居者さんには、カロリー補助食品も本人の嗜好に合わせて個別提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕毎食後の歯磨き。入れ歯、口腔内の出血や炎症のチェック。口腔内に異常や本人からの訴え時は家族に説明。意向を確認後、訪問歯科に依頼。食事時の咀嚼状態等同席の職員が注視。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握とその日の体調等を鑑み定期的声掛け、誘導、見守り、介助を実施。不快感なく過ごして頂けるよう支援。	入居期間が長い利用者が多く、職員全員が個々の仕草や癖を含めた排泄パターンを把握している。気持ちと時間に余裕を持った排泄誘導により、失禁を未然に防ぎ羞恥心への配慮にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿排便のチェック、食事量、飲水量のチェック、個別の運動の実行、全体運動の励行等実施。主治医、訪問看護師との連携により事前に便秘予防のため服薬の相談等を実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみにつながるよう支援。体調等を考慮。入浴剤等工夫。拒む方には職員が交代で声掛けをするも、無理強いはせず本人の意向を重視。当日に拘ることなく柔軟に対応。	自立度が高い利用者が多く、職員は見守りながら手を添えている。2日おきの入浴を心がけているが、本人の意思で気分良く入浴する事を最優先に対応している。お湯は毎回交換し、本人の好む湯温を職員の手で直接確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡に限らず個別の生活時間で対応。入眠時間も本人の生活パターンに対応。寝具等の清潔保持、居室の温度管理にも配慮。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は常に職員全員が確認できる状態にしている。複数の職員による服薬チェック、症状の変化は都度日報等で確認。主治医、訪問看護師、薬剤師に相談。薬剤の変更追加等全員に周知。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に対応。生活歴の中での習慣、嗜好、興味等を考慮。無理強いはせず、まず声掛けからその日の体調等も配慮しつつ対応。実施。散歩、掃除、炊事場での手伝い、洗濯関係、歌唱、製作物、塗り絵、脳トレ、DVDによる体操等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は常習的に実施。ただしコロナ禍のため施設敷地内のみに限定。	コロナ禍により、敷地内駐車場の縦長スペースが安全な散歩コースとなっている。南西向きの玄関スロープ付近は日当たりが良く、長ベンチに座りゆったり過ごしている。最大限配慮の上で外出を実施し、お便りには壮大なひまわり畑で手を振る笑顔の利用者が掲載されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持によるトラブルの発生が懸念されるため各人が所持をすることはない。入居時家族に説明、理解を得ている。必要な物品は立替払いにて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることや、御身内からの電話には制限を一切設けておらずその都度その場で対応。手紙も同様。コロナ禍の中、家族には以前にも増して電話での対応をお願いしている。家族も呼応。以前より電話、手紙の回数は増。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の工夫、掲示物で季節感、温度、湿度、空気清浄機、換気、加湿器の活用、管理。移動時混乱することがないように掲示物等で示している。	利用者は日中のほとんどを居間で過ごしている。季節飾りの製作、新聞たたみ、頭の体操等、利用者同士が寄り添い仲良く過ごしている。調査当日、居間のソファや椅子に座りテレビ体操に合わせて真剣に腕を振り上げる利用者全員の姿があった。換気、消毒、清掃は定期的に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と共用空間はオープンにしており行き来は常に自由。確保された場所と、自由に使える場所で折々に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご本人が使い慣れた物を持ち込んでいただき混乱が少しでも解消できるよう配慮。制作物、写真等ご本人の部屋に掲示。混乱を防ぐため、居室には名札を掲示。	全員が前回調査時と同じ入居者で、レイアウト等に大きな変化は無いが自作カレンダーは毎月交換している。清掃や整理整頓を行う職員を見て手伝う利用者もいる。衣替えは希望で家族が用意することもあるが、ほとんど事業所で対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人ができる事、やりたいこと、わかることの見極めを常に心がけ、トイレの場所など解り易く掲示する等、安全かつ混乱のないよう、自立した生活の確保が送れるよう配慮。過度な介助はせず行えること等見極め声掛け等にて対応。		